
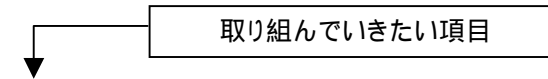


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>地域住民の方に協力していただいた「もちつき大会」や「5周年感謝祭」などの行事開催</p> <p>地域の方に「大正琴」などのボランティアにきていただいている</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>職員の意識や技術向上のための勉強会や外部研修への参加</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>施設に地域の方を招いての介護相談会や認知症についての勉強会</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>利用者様は子供が大好きなので、土曜日など「紙芝居」や「工作教室」などを開催し子供たちとのふれあいも増やしたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>施設の防災訓練などに地域の方に参加していただく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>「感謝祭」の中で、戸塚と安行地域包括支援センターの方のご協力をえて「介護相談」を実施し、御家族の相談に乗っていただいた。</p>		<p>地域の高齢者の方に施設を開放して、手芸教室などを開催したい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ユニット会議や全体会議の中で、自己評価や外部評価の意義について説明している。昨年の評価結果を見直し、具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>日常的に外部評価について、意識を持ち、日々、ケアの質の向上に取り組んでいきたい。</p>
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者様やご家族に意見を伺い、サービスの向上に向け努力している。</p>		<p>地域の方やご家族により積極的に参加していただけるよう次回の運営推進会議より、開催日を平日から土・日に変更する。運営推進会議に出席し、ご意見を述べてくれる御家族がいる。</p>
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>戸塚地域包括支援センターの担当職員の方とは、支援センターに直接、相談に伺ったり、電話で相談に乗っていただいている。川口市介護保険課の担当の方にも窓口や電話で相談に乗っていただいている。</p>		<p>4月より川口市介護相談員派遣事業を取り入れるので、施設に対する評価にや意見に前向きに取り組んでいきたい。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は「成年後見制度」の研修に参加し、併設する「高齢者ケア付住宅」の利用者様のために「任意後見」の契約に立ち会うなど支援している。</p>		<p>職場内で「地域権利擁護事業」や「成年後見制度」の勉強会を開催し、職員に啓蒙活動していきたい。</p>
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設では「リスクマネジメント委員会」を設置し、その中で「高齢者虐待防止関連法」についての勉強会を行っている。</p>		<p>身体的虐待だけでなく、精神的虐待についても細心の注意を払い、声掛けや排泄介助などに配慮する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や解約時には、必ず契約書や重要事項を全文読み上げ、利用者様や御家族の不安、疑問点には十分な説明を行っている。</p>	<p>契約時には、わからなかった疑問点などにも、丁寧に答えている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に出席していただき、意見や不満を言っている。</p>	<p>御家族の面会時に、利用者様の意見や不満などを聞いていただき、職員に伝えていただいている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回「こんぺいとう」という施設便りを発送している。</p>	<p>日々の暮らしぶりをもう少し詳しくお伝えしたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアプラン会議に、なるべく御家族の方が出席していただくか、電話などで意見や不満を伺っている。</p>	<p>運営推進会議にご家族に出席していただいている、ご意見を伺っている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見ノートに意見を書いてもらい、答えている。ユニット会議に管理者が出席し意見を聞いて反映させている。</p>	<p>意見ノートに書かれたものに関して、早急に改善策を図る。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や旅行の際には職員体制を厚くしている。</p>	<p>併設の「高齢者ケア付住宅」の夜勤も兼務しているので、独立した人員を確保したい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職があった場合、新入職員はベテラン職員と組むなどシフト上の配慮をしている。</p>	<p>離職率を下げるよう、職場の環境改善に取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の参加を奨励し、出勤扱いとし、研修費や交通費を補償している。</p>	<p>関連グループの研修にも参加しやすい環境を整備する。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の「事例検討会」への参加や、他グループホームへの見学などを行っている。</p>	<p>近隣のグループホームとの職員交流を深めたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>関連グループ合同の「納涼祭」や「忘年会」を実施している。</p>	<p>施設全体やユニットごとの交流会を活性化させたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>半年ごとに「目標管理シート」を提出させ、成果ごとに賞与などに反映させている。</p>	<p>パート職員にも何らかの形で努力に報いたい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者が、必ず、自宅または入院先や他施設に伺って、ご本人と面談しアセスメントしている。</p>	<p>管理者とユニット長が計画作成担当者の複数で面談する体制を整えたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>キーパーソンだけでなく、他の御家族の意向も出来るだけ伺うようにしている。</p>	<p>本当のニーズに御家族も気づいていないこともあるので、丁寧に話を伺うことで、真のニーズを見極める。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居がベストな選択かどうか熟慮し、必要であれば他施設などの紹介を行っている。		さまざまな社会資源を把握し、ご本人に必要なサービスを紹介する。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人に施設に見学に来ていただき雰囲気になれていただいている。		施設の行事などに参加していただき、徐々に慣れていただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理師の経験のある方に魚をさばいていただいたり、ギターやハーモニカの得意な方に演奏していただいたり、ご入居者様がもっとも輝いていた時代の記憶をよみがえらせていただくように支援している。		長い間、ホテルで勤務されていたご居者様は、多くの方と触れ合っていたらっしゃるので
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、御家族の意向やご本人の意向を確認し、共に支えていく関係を築くようにしている。		ご家族の面会回数をもっと増やしていただけるよう努力する。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時や入居後の面会時に、ご本人の生活史や家族関係を聞き取り、関係の把握に努めている。		グループホーム入居後の、ご本人の穏やかな生活ぶりを伝えることで家族関係の改善に努める。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話のやり取りや、施設に気軽に面会に来ていただけるように環境を整えている。		お誕生日などにご本人が行きたい場所に、外出するような支援をしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事時の席についての配慮や散歩時の組み合わせに配慮している。		1人1人に役割をもっていただき、施設における居場所を確保する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院している方はお見舞いに伺ったり、電話などで相談に乗っている。		定期的に近況を伺ったり、現在の施設の様子を伝えたい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴、食事、散歩などご本人の意向を伺って出来るだけ希望に添うように支援している。		以前はGPS付きの携帯電話を持って単独で外出していたが、いろいろと問題が生じてから中止している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族やご本人から、生活歴などについて詳しく聞き取っている。		普段の生活の中から、これまでのサービス利用の担当者から話を聞き取るようにしたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態や有する力に配慮しながら、自立支援に向けて支援している。		ユニット会議やサービス担当者会議などで、ご本人のADLの把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、ご本人、御家族、関係者の意見やアイデアを反映させている。		サービス担当者会議に、もっと御家族が参加していただけるように努力する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにケアプランの見直しを行っている。また、必要があれば随時、見直しを行っている。		必要があれば、朝の申し送り時などに、随時見直しを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や意見ノートを活用し、気づきや実践の結果を工夫し、活用している。		失敗した事例だけでなく、成功した事例も取り上げケアの共有化と質の向上を目指す。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人の状態によって、関連グループの老人保健施設や病院で治療やリハビリを行った後、施設に戻ってきていただいている。		併設の「高齢者ケア付住宅」の入居者様との交流も深めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご入居様の御家族様が「紙芝居」のボランティアに来てくださっている。。		警察や消防との連携をもっと深めたい。。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご入居者様が以前通所していたデイサービスも継続したいという意向があったが、介護保険上実現できなかった。		基本的に入居施設なので、他のサービスは利用していない。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者とは、電話やFAXで連絡をとっている。		地域包括支援センターの職員に権利擁護についての勉強会を開催してもらおう。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連施設のグリーンセンタークリニックや益子病院で適切な医療が受けられるよう支援している。		施設に近いところに、もっと協力医療機関を増やしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	グリーンセンタークリニックは老人保健施設「マッシーランド」内にあり、認知症の症例経験豊富な医師が診察にあっている。		精神科の協力医療機関も確保したい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師がケアマネと計画作成担当者を兼務しており、ご入居者様の健康管理を行っている。		夜間帯の急変に対する医療知識を深めたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	原則として、益子病院に入院となるので、担当医師、看護師、MSWと蜜に連携を取っている。		益子病院以外の病院に関して、さらに連携を取りたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご入居者様個別に方針は確立されていないが、施設全体として将来的には重度化や終末期も受け入れる方向で考えている。		重度化や終末期に向けた方針を確立し、職員全員で共有する。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化が進んだご入居者様も医療機関や薬の種類や量、職員の対応を考えることによって状態が改善された。		重度化や終末期に向けた方針を確立し、チームで支援する。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来るだけ住み慣れた環境に近いように部屋のしつらえなどを工夫する。		話し合いに参加するメンバーを多く集め、より多い情報量を目指す。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録についての勉強会やマニュアルを作成し、また、毎朝の申し送りなどで声掛けについて確認しあっている。</p>	<p>ご入居者様の尊厳を常に意識し、声掛けなどに工夫している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常の小さな事柄でも、最終的な決定はご入居者様にさせていただいている。</p>	<p>ご入居者様の希望をもっと引き出せるような支援をしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴や散歩など常にご入居者様の希望を確認しながら、支援している。</p>	<p>散歩など、職員体制によっては、ご入居者様の希望に添えないことがある。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>認知症が進んで髪を整えるのに時間がかかっても、むやみに髪を短くしたりせず、ご本人が好きな髪型にしている。</p>	<p>着替えなど、ご本人に決定していただく。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>盛り付けや配膳など、出来るだけご入居者様と一緒にしている。</p>	<p>味噌汁づくりやおやつなどもっとご入居者様と一緒にしようようにしたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>御家族やご本人の希望を伺いながら、ビールやおやつなど好みのものを召し上がっていただいている。</p>	<p>タバコは館内禁煙のため、お断りしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を付け、個人の排泄パターンを把握し、失敗をすくなくする努力をしている。</p>		<p>自尊心の高いご入居者様が、普通パンツからリハビリパンツなどに移行する際の支援の仕方が難しい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>1人1人の希望を伺って、時間帯や入浴時間の工夫をしている。場合によっては入浴日以外にも対応している。</p>		<p>職員体制の都合で夜間帯の希望には添えていない。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>ご入居者様の希望によって居室で休息していただいたり、食事の時間をすらして対応している。</p>		<p>ご入居者様の希望に添いながら、ADLが低下しないように工夫している。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>ご本人の生活歴やご希望を勘案しながら、楽しみながら出来る仕事を見つけている。</p>		<p>柔軟に考えて利用者様の体調に合わせて無理のないように支援している。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>おやつを買いに行くときに、ご入居者様にお金を渡して支払っていただいている。</p>		<p>個人のお買い物など、ご本人と行ってお金をお支払いいただくようにしたい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>お天気のよい日は、ほぼ毎日散歩に出掛けている。また、近くのスーパーや商店などにも出掛けている。</p>		<p>職員体制の都合で1人1人個別の場所への外出はできていない。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>町会の盆踊りや新年会、グリーンセンターや日光などの日帰り旅行に参加していただいている。</p>		<p>お誕生日などにご本人が行きたい場所に、外出するような支援をしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば施設の電話を使用していただいたり、手紙のやり取りは自由におこなっていただいている。		ご本人の希望と御家族の意向にずれがある場合、希望に添えないことがある。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は10時から20時までとなっているが、他の語入居者様に迷惑がかからない限り、柔軟に対応している。		お茶やお菓子を提供し、楽しく過ごせるよう配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「リスクマネジメント」委員会の中で、「身体拘束」についての勉強会を実施している。		行動を制限するような言葉かけも拘束に当たることを理解し、ケアに当たる。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に施錠はしていないがユニットのドアには施錠されている。		短時間ずつでもユニットのドアの施錠を外す時間帯を作りたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設の構造がリビングを中心に居室が配置されているので、死角が少なく、ご入居者様の様子が把握できる。		死角がない分、ご入居者様の逃げ場もないのでストレスがたまらないように配慮している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁など使用できるご入居者様には必ず職員がついて使用していただいている。		夜間帯など職員が1人になってしまうときは、包丁など刃物はご入居者様の手の届かない場所に保管している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ご入居者様1人1人の予測されるリスクについて把握し、予防に努めている。		ドアを閉めた状態での居室内での転倒など完全に防止できていない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師の指導のもと、「急変時の対応について」勉強会を実施している。		全ての職員が勉強会に参加していないので、2回、3回と行って徹底させたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春と秋に年2回消防訓練を行っており、避難方法を確認している。		地域の方にも参加していただいた際の避難訓練を行っていききたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時などに今後予測されるリスクについて説明し、対応策を話し合っている。		事故などの恐れがあるので、ご入居者単独での外出は行っていない。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや看護師の問診や介護日誌での情報の共有により、早期の対応を心掛けている。		夜間帯の受診は、ご入居者様にも負担になるので、日中帯の早目の受診を心掛けている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様が飲みきるまで確認し、症状に変化があった場合は、看護師の指示で、容量を変えて対応している。		粉薬など、きれいに飲みきれず、一部こぼれていることがある。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	排便記録を見て、水分摂取を促したり、体操や腹部マッサージを施している。また、食事でも繊維質の多い食品摂取を心掛けている。		ご入居者様によっては、酸化マグネシウムやラクソベロンなどの薬も併用している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、義歯を外してブラッシングなどの口腔ケアを行っている。入眠時には週2回義歯を洗剤につけ消毒を行っている。		歯みがきの拒否があるご入居者様は、リンス剤を用いてうがいをしていただいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェック表を付け、記録している。糖尿病などについて個別にカロリー計算やメニューの工夫をしている。		食器や箸、スプーンなどご本人が使いやすいものを取り入れたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	関連施設の老人保健施設で主催された「感染症」の勉強会に参加し、予防や対応の指針としている。		施設単独での勉強会も実施し、施設独自の取り決めも作りたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、布巾などは天日乾燥か高温殺菌している。食材は出来るだけ国内産の物を購入し、新鮮なものを使用している。		台所の整理を徹底したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには植栽を施し、ポストの脇に人形を置くなど親しみやすいアプローチにしている。		植栽の手入れが十分に出来ていない。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間などには季節を感じられる飾り付けや小物を配置している。		浴室、トイレをもう少し快適な環境にしたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファなど好きな居場所を選択できる。また、併設の高齢者ケア付住宅のリビングでも過ごしていただける。		気候がよくなってきたら、ベランダにテーブルなどおいて日向ぼっこができるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からタンスや引き出しなど持ち込んでいただいたり、御家族の写真やお好きな人形を置いたりしていただいている。		基本的に寝具は施設のものを使っているが、ご自宅から使い慣れた布団を持ち込んでいらっしゃる方もいる。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室清掃の際には必ず換気を行っており、散歩時などにも換気を行っている。		ご入居様は、一般的に高めの室温を希望されるので、説明してご理解していただくのが難しい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖や歩行器、シルバーカーなどご本人の身体状況に合わせた福祉用具を使っている。		入浴時に、浴槽の出入りが困難なご入居者様に対してよい工夫を考えたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には、ご本人様の顔写真を貼って居室を間違えないような工夫をしている。		洗濯物をたたんで片付けるなど、なるべく、ご本人にしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにベンチを置き、休憩できるようにしている。		駐車場なども活用していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度の事業所の目標として、ご入居者様のADLの維持、向上と 地域との交流を図るの2点を掲げ特に重点を置いている。 については、以前にもまして、散歩を積極的に取り入れ、歩行距離を伸ばし、筋力低下の防止に努めている。また、室内でも雨天時など階段の上り下りや体操などに参加していただいてADLの維持、向上を目指している。 については3月に「ラポール北原台5周年記念感謝祭」を開催した。介護相談、お食事処、駄菓子屋、フリーマーケットなどを催し地域の方に90名ほど参加していただいた。ご入居者様も売り子となって参加していただいている。ユニットUBは、認知症の進んだご入居者様で、介護拒否が強く、弄便や放尿がひどく特別養護老人ホームか精神病院への移転を考えたご入居者様を病院や薬、職員の対応を考えることによって状態を好転させることができた。